

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和3年2月分）

【製造業】

- 製造業は、12月の鉱工業生産指数が前月比0.4%と上昇。ヒアリングでは、中国経済に牽引され引き続き好調との声があった。一方で、2月13日の福島県沖地震の影響を受けているとの声があった。また、緊急事態宣言によって、営業活動が制限されているとの声もあった。

【地場産業】

- 地場産業は、12月の鉱工業生産指数がパルプ・紙、繊維工業を除き低下した。ヒアリングでは、新型コロナウイルス感染症による建築需要の減少で、タイルや家具などが売れなくなっているとの声があった一方で、刃物などは巣ごもり需要の影響で個人向けの需要が伸びたとの声があった。

【設備投資】

- 設備投資は、1月の金属工作機械受注額が海外向けでは3ヶ月連続で前年を上回ったが、国内向けで26ヶ月連続で前年を下回り、全体としては3ヶ月ぶりに前年を下回った。ヒアリングにおいては、機械設備等の導入は予定しているが、施設整備は予定していないとの声が多くあった。

【個人消費】

- 個人消費は、コンビニの販売額が▲5.4%と低下したものの、ホームセンター、百貨店・スーパー、家電大型専門店、ドラッグストアの販売額は全て増加した。ヒアリングにおいては、商店街では2月に入り、更に人通りが減った、酒店の売上が大幅に落ち込んだとの声などがあった。

【観光】

- 観光は、新型コロナウイルス感染症の影響により、観光客数、宿泊者数ともに前年同月を大きく下回った。ヒアリングでは、G o T o トラベルの一時停止と緊急事態宣言により予約が激減しているとの声や2月、3月は休館日を設定しているとの声があった。

【資金繰り】

- 企業の資金繰りは、1月の制度融資実績は、引き続き、件数、金額ともに前年同月比で大きく増加した。金融機関からのヒアリングでは、緊急事態宣言の影響を踏まえた実質無利子・無担保融資の上限額の引上げ（4千万円→6千万円）により、先月と比べ融資の申込みが増えたとの声があった。

【雇用】

- 雇用面は、1月の有効求人倍率が1.37倍と5ヶ月連続で上昇した。ヒアリングでは、製造業を中心に、人手不足との声が多く、中途採用などで対応しているとの声があった。

【景気動向】

12月の景気動向指数（一致指数）は横ばい、1月の中小企業の景況感は低下した。